



中村桂子先生によるサイエンスⅡ（インテグラル）特別講義

7月17日（水）午後、総合自然科学コースの全生徒を対象としたサイエンスⅡ特別講義を実施しました。講師には JT 生命誌研究館館長の中村桂子先生をお招きし、「自然・生命・人間について考える」という題目で講義をしていただきました。

中村先生は、生命の歴史を読み取る「生命誌」を提唱され、ゲノム（DNA）という切り口で、多様な生物に受け継がれている生物の歴史について探求しておられます。

講義では、136億年前の宇宙は何も存在しておらず、すべての生命は同じ祖先から生まれてきたという視点からお話をさせていただきました。科学とは世界観を教えてくれるものであり、すぐに答えを求めようとせず、大きな視点から科学的な物事を考えていくことが個々の将来の道筋を切り開いていくことにつながるとおっしゃっていました。

20世紀は「機械の時代」、21世紀は「生命の時代」であるということも教えていただきました。20世紀にはさまざまな技術が開発されて便利になったが、21世紀にはヒトも自然界に生きていて、他の生物と同列であるという考えを持ち、さらに生き物に目を向ける必要があるということです。



〈生徒感想1〉

講義の内容はとても興味深かったです。もっとも興味深かったのは「虫愛づる姫」についての話です。現代でもそういう人がいると惹かれるかもしれないけど、虫愛づる姫が言う「蝶より毛虫のほうがかわいい」という部分も理由を聞くと、少し共感できました。日本には学問で誇れるところがないと思っていたけど、そんなお姫様がいたという誇れる部分があったというところに驚きました。

また、中村先生の講義を聞ける機会があればいいなと思いました。

〈生徒感想2〉

生物の授業は選択していないが、とてもわかりやすい講義だった。小さな蜂がイチジクと共生することで広大な森を支えていたり、一見全く違うように見えるイソギンチャクと人間の体を支えるために働く遺伝子が同じだということに驚き、普段何気なく目にする生き物にも同じ遺伝子が働いていると思うと生き物に対する見方が変わりました。僕たち人間も生き物なのだという自覚を持ち、他の生き物を見下げるのではなく、内側から考えるという見方を持って、これから生活をしていきたいです。

